

令和2年度

津乃峰小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○主体的な学びで確かな学力につなげる授業改善の在り方

学力向上検討委員会構成

| | | | |
|---------|----------------|------------|-----------------|
| 学力向上推進員 | 委員 | 校長 多喜川 広伸 | 教頭 森北 和典 |
| | | 教務主任 西東 秀城 | 研修主任 片山 トシエ |
| 得野 真琴 | 特別支援教育コーディネーター | | 榎谷 まどか 笹田 由美 |

校長

多喜川 広伸 

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|---|--|--|---|--|
| ○自分の思いや考えを、抵抗なく文章にすることができる。 ●語彙が少なく、文章や問題を読み取る力が低い。 | ・落ち着いて学校生活をおくり、学習のきまりを守って集中して課題に取り組むことができる。 ・読書を楽しみ、要点を押さえて文章や問題を読み取ることができる。 | ・学校のきまりを具体化・共通化し、子供たちにわかりやすく示す。 ・図書を整備を進めるとともに、読書カード等の掲示を工夫し、子供の読書意欲を高める。 | 各学年ごとにその時に身につけたい力や態度を週目標に設定したり、達成度を確認したりすることで、生活態度の向上に努める。 | ・学校のきまりを各教室に掲示したことで、全教員が統一した指導を子供たちに行うことができた。 ・図書館サポーターと連携することにより、子供にとって魅力的な図書環境を整えることができた。しかしコロナ禍により、教科学習に重きを置いた指導を進めたため、読書の時間や読書カード活用のための時間は縮小された。 | 学校のきまりの徹底については引き続き行い、学校生活充実の基盤となるようにする。 読書量を増やしたり、読む力を向上させたりするため、読書の時間のもち方や読書カード活用の仕方を見直す必要がある。 |

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|--|--|--|--|---|
| ○教師や友達の話をしっかり聞くことができる。 ●自分の考えを発表することが苦手である。 | ・様々な場面において自分の考えを積極的に、かつ豊かに表現することができる。 ・多様な考えを素直に受け入れ、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。 | ・全校朝会やふれあい班など様々な場でスピーチする機会を設ける。 ・子供の意見に対し、うなずいたり、問い返したり、意見をつなげたりする態度を教師が示すことで、子供のモデルとなるようにする。 | 各教科等においても、発表の場を多く設ける。グループ学習後に全体発表を行う、思考したことを文章化してから話すなどし、発表に苦手意識をもった児童も発表しやすくなるよう配慮する。 | ・コロナ禍のため発表の機会に制限があったものの、リモートによる他学年や他校との意見交換の場が設けられ、自分の意見を積極的に発表しようとする児童が増えてきた。しかし、依然として苦手意識をもった児童も少なくない。 ・考えを広げたり、共有したりすることはできたが、一つ一つの考えを関連付けたり、他の場面で活用できたりすることまでには至らないことが多かった。 | 意見や考えを発言する際はその根拠を発言できるよう指導する。また、個々の発言を関連付けたり、他の学習や生活の場において活用できたりするよう、授業展開や発問、問い返しの仕方を工夫する必要がある。 |

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

| 児童生徒の状況(○よさ・●課題) | 具体的目標(目指す子供の姿) | 具体的方策(教員の取組) | 中間期の見直し | 達成状況(評価) | 次年度における改善事項 |
|--|---|--|--|---|--|
| ○与えられた課題に対し、素直に取り組むことができる。 ●自ら課題を見つけ、見通しをもって解決することが難しい。 | ・主体性をもって、各教科の学習や家庭学習に取り組むことができる。 ・自ら疑問や課題をもち、解決しようとする態度が身についている。 | ・学習展開をパターン化するなど、子供が見通しを持てる工夫を行う。 ・家庭学習の手引き、自主学習の手引きの指導を十分に行い、学習内容の定着とともに自発的な学習意欲を伸ばす。 ・導入時の子供のワクワク感や疑問を大切に学習展開を行う。 | 子供が課題を確実に把握するための工夫を行う。また、子供の興味・関心を抱いたことを十分に追求できる場(環境)と時間を確保する。 | ・自主学習の手引きの改善により具体的に学習の仕方が分かり、自主学習に取り組む子供が増えたが、十分ではない。 ・授業中、与えられた課題に対しては一生懸命解決しようとするが、自ら疑問をもち、解決しようとする意欲は、教科やその時の気分に左右されていることが多かった。 | 子供たちが自ら疑問や課題をもち、解決しようとする意欲をもてるよう、引き続き教師は導入や学習展開の工夫を行う必要がある。そのため、教師間で意見交換をしたり、授業参観をしたりする機会を増やすことも必要である。 |

令和2年度 学力向上ロードマップ

